

第 109 回 学長選考・監察会議議事概要

- 1 日 時 令和 8 年 1 月 29 日（木）15 時 20 分～16 時 53 分
- 2 場 所 Zoom 会議
- 3 出席者 三輪委員，伊藤委員，小田委員，佐久間委員，森委員，柴田委員，
鈴木委員，佐藤委員，菊地委員 以上 9 名
*オブザーバー：岡監事，赤塚監事

4 議事概要の確認

第 108 回学長選考・監察会議議事概要が確認され，承認された。

5 審議事項

(1) 学長の業務執行状況の確認について

牛木学長の就任 6 年目（令和 7 年 2 月～令和 8 年 1 月）の業務執行状況の確認について，監事からの意見聴取，学長との面談を行い，質疑・意見交換が行われた。その後の総括審議については継続審議とし，更に意見がある場合は 2 月中旬を目途に文書にて事務局に送付することの提案があり，承認された。

（主な意見及び質疑等 ○：委員の発言，■：牛木学長の発言）

- ・就任 6 年目の令和 7 年 2 月から令和 8 年 1 月までにおける重点課題・重視した取組についての成果と課題について伺いたい。
- ・大学院改革，J-PEAKS，そして，社会共創，その 3 つを最後の 1 年間重視して進めてきた。
 - ・大学院改革は，総合学術研究科修士課程の令和 8 年 4 月開設を実現することができたことが一番の成果と考えている。連動して「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点（FLAGs）」にも採択された。
 - ・J-PEAKS は，旭町地区に「脳といのちのイノベーションハブ」という施設が完成することができた。
 - ・社会との共創は，おいしさ DX 共創 IP として，新潟市，（株）メビウス等と連携した「にいがた 2km おいしさ DX 産学官共創プロジェクト」が，内閣府の交付金事業に採択され開始でき，また，地域医療 DX 共創 IP として，県や医師会等との連携を進めることができた。
 - ・学生寮も 6 年かけて学内のコンセンサスを得て，先日落札に至ることができた。やり残したこともあるが，重要と考えていたことは最後の 1 年で実現できた。

- ・令和2年2月から令和8年1月までの学長在任6年間における重点課題、重視した取組についての成果と課題について伺いたい。
- ・就任直後、新型コロナの対応でスタートすることになったが、最初に10年後の本学のあるべき姿を示す新潟大学将来ビジョン2030を策定し、それを基に第4期中期目標・中期計画を掲げ、教育、研究、社会共創の3つの柱を立て、それぞれに戦略を作り進めてきた。
 - ・教育面は、学部教育では、メジャー・マイナー制が目標を大きく上回り、半数近い学生が同制度を活用しており大きく変革できた。大学院教育も、融合大学院への移行を実現できたことが成果と考えている。リカレント教育は、建設系の共同教育講座の開設等により少しずつ進めた。
 - ・研究面は、研究人材の育成のために、若手・女性・外国人研究者の獲得のための学長主導によるスイングバイ・プログラムを実施し、若手研究者の比率を上げることができた。また、研究施設のコアファシリティ化を推進した。
 - ・社会共創は、共創IPを8つ作り、おいしさDXや地域医療DXなど、それぞれの取組の中で成果が出ており、全学の組織的な共同研究として外部資金の獲得を図ってきたが、より一層進めていくべきと感じている。
- ・今後、次期学長に継承して実現してほしいことや、対応・解決してほしい課題等について伺いたい。
- ・研究力強化のためのJ-PEAKSや大学院改革を推進するFLAGs事業は、本学の長を強めることにもなるので、成功するように進めてほしい。
 - ・キャンパスのグローバル化を進め、有機的なキャンパスの中で多様な人が出会い影響し合うような、地域とともに輝き世界に存在感を示す国際的な大学になってほしい。
- ・今後、新潟大学が大きく発展していくために、どのようなところにチャンスがあると考えているか。
- ・新潟市が世界の中でより知られることも重要であり、それは新潟大学ができること。また、新潟2kmの取組は単なる交付金事業で終わらず、例えば古町の活性化のために新潟大学が出て行って街づくりのプロジェクトを行うなど、より社会との連携ができるのではないか。
 - ・国際については、近年、インドに力を入れてきたが、AIや脳科学などが進んでおり、様々な可能性を秘めている。このように新たな地域に踏み込んで、他大学が入り込めないようなパートナー関係を構築し、特色を出していくのがよいと考える。ボルドー大学との連携は、日本酒とワインの関係で始まったが、今後、更なる展開にも期待している。ナバーラ

やサンセバスチャンなどのグループと連携していくのも、違う目線での国際的な新潟大学の展開のひとつではないかと考える。

- ・新潟の特長を最大限に活かした特色ある学びの場をつくることに尽力し、J-PEAKS 採択もそのような取組が評価された結果であり、これまでの貢献は大きいと考えるが、学長が目指す方向に対し、教職員に付いてきてもらえたと感じているか。
- ・教員の意識はそれぞれ異なるため、会議等の場で詳しく説明してきたが、限られた時間の中で物事を迅速に進めることを優先したため、現場に出向くことは足りなかったかもしれない。しかし、大学院改革や新学生寮関係では、時間がかかったが、大学は学生や教職員のためのものという意識で現場への説明に力を注ぐことで進めることができた。

(2) 国立大学法人新潟大学学長選考基準細目等の一部改正について

国立大学法人新潟大学学長選考基準細目等の一部改正について審議し、承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・なし

(3) 学長候補者の選定に関する意見等への対応について

学長候補者の選定に関する意見等への対応について、審議の結果、本件は人事に係る審議であり、候補者の評価や名誉への不当な影響を及ぼすおそれや今後の円滑な大学運営への悪影響、委員間の率直な意見交換の確保の必要性等を踏まえ、詳細な議事録の作成、公開は行わないこととし、投票結果(票数)についても、当日は無記名投票で実施し、票数の公開を前提にしておらず、各委員がどの候補者に投票したのか等の事実を反する推測を助長する恐れがあることから公開しないこととした。

学長候補者の選定に係る審議において、学内外委員数のバランスが今回の選定結果に影響し、公平性を欠いたとは考えていない旨も含めて、今後、学内に説明することが承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・大学は教育機関であり、教職員は自身が参画しているという意識が強いと思われ、公開できることは公開し理解を得ることも必要ではないか。
- ・昨年11月に公開した説明文において、かなり踏み込んだ内容まで記載している。今後、学長選考の在り方の議論について、必要に応じて説明していくことがよいのではないか。

(4) 学長候補者選考の実施計画における課題等について

学長候補者選考の実施計画における課題等について、審議の結果、今後、これらの課題を継続的に検討していくことが承認された。

(主な意見及び質疑等)

- ・なし